

オアシス

発行日 2022年10月
 発行者 NPO法人オアシス
 TEL 0533-69-0052
<http://www.npo-oasis.com/>

特集

本法人メンバーには、四名の日本語指導有資格者が在籍しており、それぞれの市町で研修生・実習生の指導に当たっています。そんな中、遠く母国を離れ不安を抱えつつも、『志』の実現を夢見る彼らの思いを本紙に寄稿いただきました。

日本の生活

バンデイ・ラムチャンドラ

【ネパール】

日本に来てから五か月ぐらいいになりました。この間に、苦しいことや楽しいことなど、体験してきました。

初めて日本に来たときは、日本語もわからないし、町や規則も初めてだし、大変でした。今は豊橋日本語学校の真剣な先生のおかげで、日本語もだんだん上手になって、日本について、いろいろなことがわかるようになりました。でも、充実した生活にするためにがんばっています。

日本では物価がずっと高く、料理も

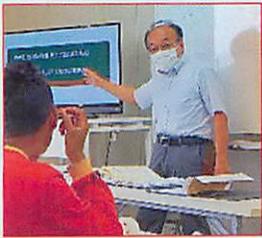
私の国とは全く違うのであまり食べられませんでしたが、今はなれてきました。日本はいろいろなことが便利で未来型です。

私は、日本の文化や自然が大好きです。日本でもっといろいろな経験をしたいと思っています。今、私は自動車の勉強をして、いい会社に入つて、もう五、六年ぐらい生活しようと思っています。

しょうらいのゆめ

シー・テユ・ソー【ミャンマー】
 だけれども、自分のしょう来のもくひようをもっています。もくひようをたいせつにするために、一生どりよくをしなければなりません。

私にもゆめのもくひようがあります。もくひようをたいせつにするのはかんたんではないいんです。私のゆめをじつげんするた



めに、日本に来て5か月以上経ちました。高齢化をコントロールする技術に興味があります。この科学を学び習得するために来ています。

私のゆめは、有名なITぎじゆつしゃになることです。今は豊橋日本語学校で勉強しています。その学校を卒業したあとで、ITカレッジに入りたいです。ITカレッジを卒業したあとで、日本のきぎょうのITで、日本にりえきをもたらしたいです。ゆめのじつげんにむけてがんばっています。

やっぱり日本語はむずかしい

バン・ウアン・ズオン

【ベトナム】

私は日本に来て五年になります。なぜ日本に来たかという、ベトナムでがんばっても何も変わらない、せっかく頑張るなら日本で頑張つてチャンスをつかみたいと思つたからです。

日本語は難しい、日本語は難しいといわれましたが、だからこそ頑張りたいと思



いました。でも、実際はやっぱり日本語は難しい。一人で本を読んで勉強しましたが、本に書いてあることと実際に話すとはかなり違います。例えば「です、ます」で話すと、もっと短く言つてよ、と言われました。なぜそんなことを言われるのか。家で一生懸命勉強したのに、日本語が下手だと言われて、とても落ち込みました。

日本語のいろいろな意味や表現をもっと知りたいと思つて、ボランティアの日本語教室に行くことにしました。今、先生と話したり、言葉の説明を聞いたりして、日本語がもっとわかるようになって、とても楽しいです。

もっと知りたい日本のよいところ

シュレスタディバック

【ネパール】

私が来日した日から一番大切に思っていることは、時間です。どこにいても間に合わない、人生が辛いんです。学校に行く時やアルバイトのめんせつにいく時、いつも決まった時間に間に合わない、日本で生活するのは難しいです。ネパールにいた時は、やりた



い事だけやって生活していました。日本の生活のしかたを身に着けたいと思います。

食べ物も大きく違います。日本人はあまり辛い食べ物を食べません。でもネパール人は辛いものが好きで、ちよみりようをたくさん使って料理を作ります。日本の食べ物、ネパールのより体にいいと思います。

日本語の勉強でこまっていること

むずかしいこと

タバ・サミル 「ネパール」
母語で思った通りに話せないのが、日本語の勉強でこまっていることのひとつです。日本語がわかるようになって、勉強をした文法を使って、日本人が話すように、速く話すのは難しいです。日本語が分ければ、自分の考えたことを話すのは、そんなに難しくはないと思っています。

日本人はあまり英語を使わないので、日本人の先生に日本語の意味を日本語で教えてもらいますから、正しく分かってないかもしれないと思っています。

豊橋日本語学校の先生は、みんな英語が上手で意味が分かなければ、英

語で教えてくれます。

学生が英語でもわからなければ、白板に絵をかいたりドラマをして、分かるようにしてくれま。この学校で勉強しています。



【紙談】「ランニングハイ」という言葉があります。五十代後半、私も良き思い出として体感していた時期があります。ある程度のスピードで走ることが苦痛ではなく、逆に気分の高揚「ハイ」になっていく状態を指します。実習生・研修生の皆さん、日本語での「コミュニケーションハイ」は、もうすぐ手の届くところにあります。めげずに、日本人との交流に精進して下さい。

カンボジアでの支援活動

石川桂氏 2年半ぶり現地へ

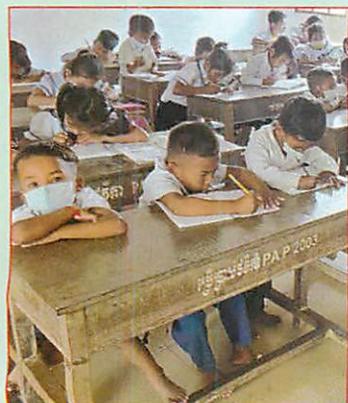
本法人最高齢（八十七）の石川さんは、去る五月、カンボジアに赴き2005年より継続してきた教育活動支援を再開しました。今回は、2012年に校舎を建設支援をしたジーポア小学校へ。久しぶりの訪問に、全校



ジーポア小の児童・先生・保護者



挙げての熱烈歓迎を受け、感無量とのこと。七月の報告会において、氏は、訪問を重ねるごとに校内にはゴミなどがなくなり環境美化が進んできていること。また、脱いだ靴が、きちんと整頓されて棚に収まっているなど、整理整頓の心得も身に着けてきており、息の長い支援の成果が見受けられたことを強調された。氏からすると七十代、六十代の私たちは「若僧」、まだまだ未熟者です。氏の実践に範を得て、さらなる支援活動に挑戦したいと考えます。



ジーポア小の授業風景

SDGs 推進事業 17 「パートナーシップで目標を達成しよう」 募金募集：1口3,000円

国内外を問わず多様な可能性に挑む人たちの「志」の具現化を助け、生活・教育・技能支援を行います。

《募金先》特定非営利活動法人オアシス

郵便為替：00840-8-123690

《報》年度当初の指針に則り、2022年11月13日、初の『オアシス応援地球志民学校』を開校します。

【お断り】本号は、従来の写真多用の横書き版ではなく、寄稿文の文字数に合わせ縦書き四段組みの紙面としました。次号も本号と同様の予定です。ご了承ください。